

令和元年度香川県がん患者ニーズ調査の結果について

1 目的

この調査は、がん医療やがん患者の療養生活に係る実態や意見等について調査を行い、がん対策を取り巻く状況の変化やがん患者のニーズを把握することにより、第3次香川県がん対策推進計画の進捗状況を把握し、中間評価を行うための資料を得ることを目的とする。

2 実施主体

香川県（香川大学に委託）

3 調査方法

- (1) 調査対象 香川県内のがん診療連携拠点病院等において、入院中及び通院中のがん患者で、アンケートの趣旨に同意が得られたもの
- (2) 配布数 800部（うち有効アンケート数 464部）
- (3) 対象選定 調査期間中に外来に受診又は入院している者
- (4) 調査方法 無記名式アンケートを医療機関において配布し、直接回収した。
- (5) 調査期間 令和元年11月～令和2年1月

4 調査内容

- (1) 患者の属性等について（11項目）
- (2) がんの診断について（5項目）
- (3) がんの治療について（11項目）
- (4) がん治療の諸問題について（11項目）
- (5) がん治療と就学・就労について（9項目）
- (6) 療養生活全般について（2項目）

5 調査結果

別添報告書のとおり ※以下、主な項目を抜粋

○ がんの治療関係

【がんと診断されて以降、どのような情報が欲しかったか】

自分のがんの標準的な治療方法	45.6%	主治医の説明だけで十分だった	44.9%
治療による副作用	32.3%	自分のがんの一般的な治療成績(5年生存率など)	30.1%
経済的負担がどれくらいになるか	30.1%	仕事や学業との両立支援	14.8%
先進医療が受けられるか	13.3%	近くの病院の治療成績(手術件数など)	8.8%
介護や育児との両立支援	1.3%	その他	0.9%

【がんと診断されて以降、どこから情報を集めたか】

インターネット 40.6% 家族・親戚 31.8% 主治医の説明だけで十分だった 29.8%
病院内のパンフレット・チラシ 21.4% 友人・知人(がん患者・経験者) 14.9%
友人・知人(がん患者以外) 13.3% 主治医以外の医療従事者 12.9%
書籍 12.4% がん相談支援センター 4.5%

(参考としたインターネットサイト)

国立がん研究センターがん情報サービス 43.5%
検索してたまたま出てきたサイト 34.5% 有名人や個人の闘病記 29.4%

○ がんの治療の諸問題関係

【治療開始前に医師から生殖機能への影響(妊よう性消失の可能性など)について説明を受けたか】

説明されていない 74.6% 説明があった 18.0% わからない 7.4%

(「説明されてない」と回答した人について、説明を必要としていたか)

その時点では必要としていた 5.1% その時点では必要としていなかった 94.9%

【がん相談支援センター利用したことがあるか】

利用したことはない 77.9% 利用したことがある 22.1%

(利用したことがある場合、役に立ったと思うか)

とてもそう思う 29.2% ある程度そう思う 54.2% どちらともいえない 12.5%
あまりそう思わない 2.1% まったくそう思わない 2.1%

(利用しなかった理由)

相談したいことはなかった 58.8% 必要としていたときには知らなかった 15.3%
何を相談する場か分からなかった 14.5% プライバシーの観点から行きづらかった 6.1%
相談を受け止めてもらえる自信がなかった 5.3% 他の患者の目が気になった 2.3%
その他 6.1%

○ がん治療と就学・就労関係

【職場や仕事上の関係者にがんと診断されたことを話したか】

話した 86.7% 話さなかった 12.5% その他 0.8%

【がんと診断された後の仕事の状況はどうなったか】

同様の仕事を継続した 31.5% 量などを調節して同じ仕事を継続した 16.4%
休職(業)したが転退職(業)はしなかった 31.5% 自主的に転退職(業)した 16.4%
勤務先から転退職を余儀なくされた 2.7% その他 1.4%